



R 3.2.12 撮影

【巻頭言】

制約の中で思考を磨く

二本松市立二本松南小学校長 佐藤 則之

子どもたちが身につけるべき資質・能力の一つとして「思考力、判断力、表現力」があげられている。これは、学力の三要素として法令の中にも位置づけられ（学校教育法）、学校の教科学習の中で育まれることは言うまでもない。

授業中、子どもは多くの制約の中で思考する。学習活動の中で解決すべき課題に向けて取り組む時、そこに意図的に意味のある制約（時間、条件、量、内容等）が明確に示されていれば、子どもの思考は促されると考える。授業の中で教師が意識するだけで、日々の学習活動での子どもの思考に広がりや深まりは違ってくる。

この「思考力、判断力、表現力」は教科学習以外の学校生活の中でも育まれていくと思っている。では、教科学習以外の学校生活の中で、どのような場面があるか。例えば、子どもが学習用具を忘れた時と仮定してみる。そのままにしている子、先生に訴えてくる子等、子どもの対応は様々である。このような場面一つとっても、教師がどのように対応すれば、その場を有益な子どもの思考、判断、表現の場にできるのかを考えてみたい。

「先生〇〇忘れました。」と言いにきた子どもは、忘れた事実を自ら思考・判断し、教師のもとへやってきたはずである。その時に、例えば、子どもが考えるはずの解決法や自分の気持ちを伝える方法をこちらが先回りして「〇〇なの。」「〇〇してきなさい。」「じゃあ、〇〇してあげるね。」と言ってしまうことは、決して子どもに寄り添った対応とは言えない。

子どもの困り感を受け止め「おそらく、こういうことを期待しているんだろうな。」と思うことは大切である。しかし、度が過ぎると、子どもが自分で言葉を発しなくとも、大人が解決してくれるのだから、子どもにとってこれほど楽なことはない。これでは思考・判断・表現の場が奪われていると考えてしまうが、いかがだろうか。

子どもが置かれている状況を「見つめ」、その子の思いを「受け止め」、思考状態を「とらえ」、思考・判断・表現の場となるように「生かす」意識を持つようにしたい。キーワードは「見つめ」「受け止め」「とらえ」「生かす」である。ただし、子どものおかれている家庭環境等の実情や子どもの特性、発達段階を踏まえた上での配慮が必要であることを忘れてはならない。

私たち大人も仕事であれ私生活であれ、日々生活の中で解決すべきものがあれば、どうにかしようと思ひ解決策を探る。「制約があるから…」といっても過言ではない。今年度はコロナ禍もあり、以前にも増して多くの制約の中で過ごさざるを得なくなっている。私達も校長として学校経営について思考・判断・表現する機会が数多くある。臨時休業期間中の児童の学びの保障や生活リズムのこと、学校再開後の児童の学びの保障のこと、生徒指導のこと、体力向上のこと、感染症対策のこと、保護者との連携のこと、学校行事の実施の可否のこと、次年度の教育課程編成のこと…多くの思考すべきこと、判断すべきことは、正に現在進行形である。しかし、不思議なことにそのような日々を過ごす中で、思考・判断・表現が以前よりもスムーズにしかも的確に行われているように思える時がある。同僚教職員との役割分担や連携、保護者への発信等を何度か繰り返すたびに、よりよいものへと改善しているように思える時がある。制約の中で、私達校長の思考も磨かれている。

【特集テーマ】

【特集テーマ】

同じ方向に向かって

二本松市立川崎小学校 服部 英昭

本校では、5月の臨時休業による学習の遅れを取り戻すためにコロナ感染防止と授業時数の確保の両面から行事の精選を行ってきた。例えば、学習発表会を中止とし、延期していた運動会の内容を精選して「全校体育参観」を実施したこともその一つである。学区内の神社から保管を委託された「子ども神輿」を活用して、会場の雰囲気盛り上げるなどの工夫も加えた。

この行事の反省記録に教職員の次のような感想が述べられていた。



「久々の行事に子どもたちも張り切って取り組むことができました。

特に、ソーラン節を練習から本気で踊り、達成感を感じていた。何か一つをみんなで頑張ろうとすることの大切さを感じた。」

「何かをみんなで成し遂げることで、連帯感や達成感を感じることができるという意味では価値があると思う。それを授業内で感じられるような取り組みを考えて行かなければならない。」

この反省を読み、学校全体が同じ方向に向かって共に活動することが、子どもと教職員のやる気や達成感を高めることを改めて実感した。

このことを次年度の教育課程へ生かしたいと考え、本校の課題や弱点を克服するための方策をかなり具体化して教職員に示した。例えば学力向上の視点からは、低学年から高学年までの発達段階に合わせて15項目の実践事項を設定した。行動を具現化することにより、取り組み状況も評価しやすくなり、さらに教職員みんなで同じ方向を向いて指導を重ねることで、成果を上げることができると考えた。

次年度、この戦略で教職員と子どもたちに達成感や満足感を味わわせたいと考えている。

「主体的・対話的」を支える力

二本松市立旭小学校 石澤 悟

コロナ禍で「学校の新しい生活様式」が定着し、制約の多い学校教育の中で、様々な行事や活動が延期・中止・内容変更をせざるを得ない状況となってきている。そんな中で何が出来るかを模索し創意を生かした「子どもが中心の行事」へと大きく舵を切った学校も少なくないはずだ。

本校でも、9月に「旭っ子フェスティバル」を実施した。当初、運動会の代替行事として考えていたが、学習発表会を実施しないことに決めた時点で方針転換を図った。文化的な行事の要素も取り入れ、児童主体で創り上げる行事を目指した。元々縦割り班活動で全校活動や総合の活動を行っていたこともあり、4つの縦割り班が各リーダーのもとで何が出来るかを話し合って発表内容を決定していった。準備運動も、運動委員会の子どもたちが新たに考え、全校児童に指導した。思いの詰



まった新しい種目も生まれた。時間はかかったが、「たくましく生き、ともによりよい未来を創っていく子どもの育成」が形になった瞬間だった。

現在は、今年度の総合で栽培活動に取り組んだ五葉黒豆や紅豆などの岩代地区の伝統野菜を使った商品開発を手がけている。複式学級の中で、様々なアイデアを出し合いながら、学年の垣根を越えて話し合い創造する姿に、コロナに負けない「生きる力」を感じている。

そして何よりも、この子どもたちを支え導くために「主体的・対話的」に試行錯誤を繰り返す教職員の姿に力強さを感じている。

【特集テーマ】

【特集テーマ】

未来を創る子どもの育成を目指して

子どもたちの豊かな未来のために

本宮市立白岩小学校 鈴木 茂

大玉村立玉井小学校 小林 雄

白岩小学校は、昨年度から福島県より「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」放射線教育実践協力校の指定を受けています。2年間の研究主題として「安全・安心な社会づくりに貢献できる ころ豊かな子どもの育成」を掲げ、実践研究に取り組んできました。

昨年度は、知識・技能を習得させることに重点を置いていましたが、今年度は、知識・技能を活用することに力点を置いた実践を積み重ねました。



【放射線教育実践協力校公開授業】

その結果、校長としては、大きく2つの成果を見出すことができました。ひとつめは、児童が、課題に対して主体的に考え、解決するようになったこと。ふたつめは、教師が、活用を図るための授業構想力を向上させたこと。これらが相互に結び付くことを、教師一人一人が体現できたことは、今後のカリキュラム・マネジメントに基づく教育課程編成におおいに役立つものと考えます。

昨年10月23日には、授業公開をさせていただきました。新型コロナウイルス感染予防のために、来校者を本宮市内の教員に限定し、それ以外の方にはオンラインで公開しましたが、多くの貴重なご意見を頂戴することができました。また、東洋大学教授の大辻 永先生からは、先進的な考え方に基づく実践研究であることの評価をいただき、自信につながりました。安達地区の校長先生方のご支援に感謝申し上げます。

未来を創る子どもを育成しているのは教員です。その教員を育成するために、校長が研修の機会を広く求めることが、いかに重要かを学ばせていただく2年間の指定研究でした。

家族や友だち、他人に対する思いやり、自然や生き物を愛する心、正義感や責任感、豊かな人間性は、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値のあるもの」であり、それらを子どもたちに培うことは、いつの時代の教育においても、大切にしなければならないものです。

本村大玉村の教育の特色であるコミュニティ・スクール、地域学校協働本部を中心とした学校・家庭・地域が一体となった「地域と共に歩む学校」「学校を核とした地域



づくり」の推進は、子どもたちの確かで豊かな学びを支えています。そして、地域の方々に見守られ、包まれ、囲まれての学びは、子どもたちに、郷土への愛着や誇り、自己肯定感、人を思いやる心、社会に対する当事者意識等、まさしく「時代を超えて変わらない価値のあるもの」を育てています。地域や自然を愛し、人を思いやる心を育む「不易」の教育を保護者や地域の方々と共に推進していく意義を大切にこれからも取り組んでいきたいと考えます。

また、一方でICTをはじめとした「時代の変化とともに変えていく必要のあるもの」に対応していくことも教育に課せられた課題であり、子どもたちが活躍する将来のために必要なことです。

教育の「不易と流行」を十分に見極めつつ当たり前のことですが、全ての子どもたちを大切にし、子どもたちの豊かな未来のために頑張る学校を地域と共にみんなのチーム力でつくっていくことを目指していきます。



【学校運営協議会の様子】

【特集テーマ】

【趣味・随想】

学び育つ子どもたちのために

本宮市立糠沢小学校 児玉 健治

主体的・対話的で深い学び”の実現に向けた授業改善が叫ばれています。教室に自立的な学びと共同的な学びを子どもとどのように実現していくか、子ども相互のかかわりをどのように築くか、一人一人の子どもに対する教師の働きかけはどうあればよいか、考えることは多くあります。本校の教員も校内授業研究を通し真剣に子どもに向き合っています。

“課題は子どもたちに考えさせなさい”私が新採用のころ、この言葉に悩みました。なぜなら授業を受ける側の経験しか持たない教員としては、授業のねらいがあるのにそれは無理だと思ったからです。ほどなくして異動となった学校で出会ったのは、同年代で研究熱心な同僚たちでした。彼らの授業を参観させていただいたり、彼らに誘われ当時“授業名人”と言われた著名な方々の講演や研修会に足を運んだりして次第に見えてくるものがありました。それは“子どもに課題意識を持たせること”だったのです。よりよく学ぼうとする意欲を持たせるには導入は大事です。そこにわからなさの自覚があってこそその課題意識です。今でいうと「主体的に学習に取り組む態度」という言葉になりますが、これは授業の導入部分も含め、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかということを表しています。そのためには、授業の中に継続的に学習意欲が喚起される場面が用意される必要があります。

私などは、かつての担任した学級を思い浮かべて、こんな働きかけをしたらこんな風に反応するのではないかなどと、私なりに授業改善の在り方を考えてしまいますが、現実には学級担任を離れてもう数年、目の前にいる子どもたちの姿を見ていると、彼らの実態を分かっているのはやはり担任です。課題に挑んでいく子どもの姿を目指し、いかに問いを持たせるか、いかに意欲付けを図るか投げかけながら今後も教職員一丸となって、あるべき授業の姿に近づいていきたいと考えています。

神様が与えてくれたチャンス？

二本松市立岳下小学校 草野 和代

昨年、86歳の母が、「全財産を注ぎ込む」と言って、空き家になっていた自分の実家を建て替えた。本来ならば自分の周辺を整理する年齢なのだが、「自分の生まれた場所を他人の手に渡したくない」という母の思いは相当に強く、先のことをあまり深く考えない私は、その勢いに押されて同意した。でき上がったのは、前の家の半分にも満たないコンパクトな家だが、どんな家でも一軒建てるとなるとそれなりに費用はかかるもので、結局私もだいぶ応援する羽目になった。

さて、でき上がったはいいが、その家をどう活用するか。そこは自宅から十数キロ離れている。交通の便がよくないので、母一人では行けない。できるだけ週末には行くことにしているが、行っても特にやることなく、手持ちぶさたで調子が出ない。しかし、週末訪問を繰り返すうちに、少しずつ「夢」が浮かんでくるようになってきた。

暖かくなったら、母と共通の趣味である「園芸」に精を出そう。近くにある親戚の休耕地を借りれば「農業」もできる。余計な物がない閑散としたその家には、古い家で使っていた道具や家具を少し残してあるので、今見直されている「丁寧な暮らし」について考えるのも悪くない。元来マメではない私は、家事のほとんどを母任せにしてきた。教師として「生活科」にハマリ、「生活科愛」を語ってきたにもかかわらず、自分自身の「自立し生活を豊かにしていく資質・能力」については、全く育んでこなかった。これは、天の神様が母に乗り移り、私に自分自身のための生活科を実践するチャンスを与えてくれたにちがいない！(?)

三十数年間携わってきた教職だが、2年後には「退職」という節目を迎える。これからは「自立し生活を豊かにしていく」をテーマに、季節の移ろいを体全体で感じつつ、手仕事を取り入れた暮らしに少しずつ近づいていければと考えている。

■ 【趣味・随想】

“沼”にはまる

二本松市立東和小学校 八巻 博之

沼(ぬま)【意味】①湖より浅い水域。②趣味に熱中・没頭して、もはや抜け出せなくなってしまっている状況を表す言葉。大変な時間あるいは金銭を浪費してしまっているというニュアンスを込めて「カメラ沼にはまる」のように用います。

私にとっての沼は、“コレクション沼”です。ときどき取り憑かれたように何かを買い漁る時があります。これまでの収集の歴史を振り返ると、どこに心をくすぐられたのか思い出せないものもあり、“浪費沼”の連続と言えます。

小・中学…カード、シール、切手、コミック本
高校・大学…レコード、カセット、ポスター
それ以降…CD、LD、DVD、レンズ…

コレクションと言えば聞こえが良いのですが、今も押し入れに眠るお宝を今更手放すことができず、「断捨離」を勧める家族を呆れさせています。

処分できない理由の一つに「授かり(保有)効果」があるそうです。これは、「自分が所有している物への評価が、他人のその物に対する評価より高くなる心理」を指す言葉です。例えば、五百円で買ったカップを、手放すときは八百円で売りたいという気持ちになるそうです。別に欲が深いのではなく、所有者にとっては、所有しているという理由だけで、そのカップの価値が上がってしまうのです。この授かり効果のせいで、いったん買ったものはいつまでも手元に残り、結果的にけっこうな数が集まってしまうというわけです。

コロナ禍の巣ごもり生活で宅飲みが増え、気がつくとういすキー沼に足を取られかかっている私があります。時を経て、昔では買えなかったものを買い漁ることや不安を解消することも収集癖の要因になると言います。今度も“底なし沼”になることを心配しつつ、経済活動への貢献という大義名分のもと、今暫くはどっぷりと沼にはまって、安らぎを感じていたいと思います。

■ 【趣味・随想】

大平スマイルフェス～笑顔がもたらす力～

二本松市立大平小学校 菅藤 文彦

「大平スマイルフェス」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定していた行事が中止や延期せざるをえなくなった中、6年生が、感染症対策をしながら、何かできないかと考え、企画したものです。前日までの種目説明や種目練習、プログラム作成、そして、当日の進行や準備なども行いました。「大平スマイルフェス」は、「コロナの中でも笑顔でいられるように。」という願いをこめてと名付けてくれました。

当日、会場は、この上なく素晴らしい天気の下、大平の子どもたち、保護者の方々、教職員の笑顔でいっぱいになりました。

大平スマイルフェスを通して、「笑顔」は誰もが持っている素晴らしい表情であり、それは人を元気にし、優しさを伝えるものだと改めて感じました。

それを教えてくれた6年生、6年生を支えてくれた保護者、教職員、協力いただいたPTAに感謝しています。

人は、楽しい時、うれしい時に笑顔になります。笑顔になれば幸福感が得られます。さらに、自分だけでなく、周りの人も幸せな気分させます。楽しそうに笑っている人を見るだけでこちらも楽しくなるし、笑顔は周りの方に対する印象を良くします。また、笑顔は自分の気持ちを明るくするだけでなく、思いがけない形で、他の人を助けたり、幸せにしたりしているものです。「笑顔」には、みんなを幸せにする素晴らしい力があります。私は、子どもたち、教職員、保護者、地域の方の笑顔からたくさんの元気をもらっています。私も、笑顔を忘れずに過ごそうと思います。



【趣味・随想】

【趣味・随想】

「普通に暮らす。」ありがたさ

本宮市立本宮小学校 佐藤 健夫



普段の朝のあいさつ

今年度はこのコロナ禍により、休校措置や学校行事の延期や中止、教育課程の大幅な変更を余儀なくされ、通常の教育活動が難しい状況となりました。そんな

中でも本校においては、教職員と子ども達の精一杯の頑張り、PTA役員の方々をはじめ保護者の皆様、地域の方々のご協力の下でなんとか教育活動を進めることができ、今年度を無事終えることができようとしています。

よく一区切りを終えたあいさつで「大過なく……」という言葉が用いられます。「無事に」という意味とともに、「なんとか無難に過ごした」という消極的な取り組みとのニュアンスが感じられ、あまりよい印象を受けないといわれる方もおり、どちらかと言えば私もそう思っていた部分もありました。

しかし、今回のこのコロナ禍で、無事に過ごすこと、普通に生活することがいかに幸せなことであり、ありがたいことであるかを痛感しました。これまで、あまりにもあたり前すぎて日常の中で見逃していたことが、本当にすばらしいことだと痛感しました。今までの自分の人生を振り返り、生きていることへの「感謝」の気持ちがまだまだ十分でなかったとおおいに反省させられました。今もなお出口の見えないこのコロナ禍で、子どもたちにはたいへんな苦勞をかけましたが、そんな中でも「普通に暮らすこと」の大切さ、ありがたさに気づかせ、せめて豊かな気持ちを持って生活してほしいと切に願っています。



運動会の様子

VBAから学ぶことは・・・

本宮市立五百川小学校 佐藤 聡

私がVBA (Visual Basic for Applications) と出会ったのは、今から25年以上もの昔のことです。Microsoft Excelの虜になったのもその頃でした。

当時の自分にとって、新年度のカレンダーを作成する際の一番手間のかかる作業は、「曜日の更新」でしたが、ある日、ネットサーフィンをしていたら、偶然、すごいものを見つけました。

それは、曜日がボタン一つで更新できる万年カレンダー機能付きの年間行事予定表のエクセルファイルでした。加えて、エクセルにVBAが搭載されていることを知った時の衝撃は、今でも鮮明に覚えています。

それからというもの、VBAの本を買いあさり、「何か校務で役に立つものを作りたい」という欲求にかられ、40代前半までは、夜中の12時を過ぎても、寝床でノートパソコンのキーを叩いていたことがよくありました。

現在、本校では、多忙化解消のために、小職が作成した「時間割・週案システム」「出席簿システム」「教育計画カレンダー時数計算システム」等々、先生方に使っていただいております。全て、エクセルファイルですが、「シート上に一切、関数が存在しない」というところが、作成時に自分に課した目標でした。(関数が一つでもあると、間違って「Del」キーで削除されると機能しないので……)

「難しいことは簡単に」「簡単なことはより簡単に」・・・先生方の子どもたちと向き合う時間を確保し、子どもたちが安心して学ぶことができるよう、今後も、実際にプログラミングを続け、改善に努め、自分自身のプログラミング的思考を磨いていきたいと思う今日この頃です。